

# 私の元気充電術

## 食



タケツクス・ラボ社長 清岡久幸さん

### 仲間と世界の料理を

竹を活用し、食の安全や環境問題に取り組みタケツクス・ラボの社長、清岡久幸さん(46)。竹に囲まれて育ち、研究開発を始めて26年が経つ。

竹の皮には食物を腐らせない成分がある。昔からおにぎりやだんごを持ち運ぶにも竹の皮が使われていた。

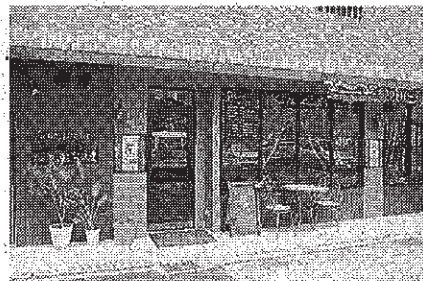
清岡さんは孟宗竹の表皮から抽出した成分で食品添加物や抗菌剤を開発。O-157食中毒事件の折り、その抗菌性が実証され、注目を浴びた。最近では、鳥インフルエンザウイルスへの除菌効果があることも判明。販売先は飲食店や介護施設、食品工場にとどまら

ない。

断熱、吸音、脱臭効果があることから竹の建築資材も扱う。さらに、長年温めてきた化粧品開発、アジア進出の準備と、忙しい毎日が続く。

典型的なO型人間で、悩みは翌日に持ち越さない。しかも「休日も仕事をしないと逆にストレスになる」という根っからの仕事人間。家族や社員、ビジネスパートナーとの食事のひとときが唯一の楽しみだ。

「料理が得意な母親は自宅での飲み友達。和食、イタリアン、ロシア料理とレパートリーが広く、おいしいのでつい食べ過ぎてしま



江坂公園の向かいにあるスペインバル「ネシオ ペケーニョ」。落ち着いた雰囲気の中でシェフ自慢の料理を堪能できる

う。そのせいで体重が増えてしまいました(笑)」

会社近くにあるスペイン料理店「ネシオ ペケーニョ」。店内は落ち着いた雰囲気、都会の中の隠れた存在。パエリアやタパスなど自慢の料理が常連客に評判だ。夜中の2時まで営業しているので地元客も多い。

「料理はおいしいし、じっくり

話せるのがいい。ビジネスパートナーとストリートに話し合うと頭の中が整理されてすっきりする」と、清岡さんは話す。

実家は竹細工の工房だった。生まれたときから竹が身近にあり、特性を肌で感じていた。転機が訪れたのは高校2年の時。2年半の入院生活の中で、病と闘う子供とその母親たちと交流を深めたことがきっかけだった。母親たちは子供の健康を考えて食生活を管理していたら、と悔やんでいた。

製品開発では、企業の視点ではなく、母親の視点に安全基準を置く。その理念を貫くことが、社会に貢献できる存在価値のある会社だと考えている。

「子供の健康を願う母親は、安心や安全を追求するのに妥協しない」。素晴らしい切なる目には、一人息子を想う母親の優しさがあふれていた。(ライター 橋長初代)